

事業名 インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト

採択大学等名

東京農業大学

連携市町村名

浪江町、双葉町

取組概要(目的)

2021年度から本事業では福島県浪江町を拠点として、本学の建学の理念である“人物を畑に還す”に則って、基幹産業である農業分野のみならず、商工業分野の担い手育成に向けた教育研究プログラムを、「**インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト**」として、連携協定を締結している浪江町・(株)舞台ファームの協力を得ながら、本学の3キャンパス(世田谷・厚木・オホーツク)の大学生・大学院生を中心に展開する。

これによって浪江町の復興支援活動に参画し、将来的な交流人口・関係人口として期待できる「**復興支援サポーター**」を年間20名輩出し、浪江町への**新規就農や地域企業等への就職**による人材定着につなげる。

さらには、農業生産の拡大・振興および地域資源を活用した商品提案等によって、農業以外の関連産業との連携をも強化し、震災復興と地域経済全体の活性化を目指している。

2023年度からは浪江町に隣接する**双葉町**の農業支援に向けた基礎調査に着手し、将来的には沿岸地域の自治体との連携により、農業分野の担い手育成を中心とする課題解決に寄与していくことを目的としている。



一般農業実習プログラムコース「浪江復興米」の田植え作業の様子(2023年5月14日:南棚塩地区) 会場は福島舞台ファーム(株)の協力により、圃場を使用している。

2023年度より双葉町の農業支援に向けた基礎調査を実施(2023年8月29日:双葉町産業交流センター)



これまでの成果

第1に、**インターンシップ型教育プログラムの構築**である。右図に示したように、これまでに取り組んできた各種の取り組みを、基礎コースとしての「復興浪江学」、「一般農業実習プログラム」コース、応用コースとしての「特別実習プロジェクト」コース、「特別インターン」コース、「新規就農実践講座」を配置し、「学生プロジェクト」は基礎・応用コースに取り組む学生の中から有志で組織して学園祭(収穫祭)や各種イベントに参加する形式を整えることによって、プログラムを段階的に学ぶ体系性を構築できた。

第2に、**各種の教育プログラムの展開と充実**である。「復興浪江学」は、活動の広報・宣伝に向けた基礎的な講座を実施したり、地域の主力産品である米の需要創造に向けたライスパック工場見学を実施するなどして学生のアイデアを盛り込んだ展開となっている。

「**一般農業実習プログラム**」は、主に伝承館の見学と福島舞台ファーム(株)との連携により「浪江復興米」の田植え・収穫体験を実施しており、初心者が被災地復興に触れ、理解と醸成を深める機会としている。

「**特別実習プロジェクト**」では、プロジェクトを担当する教員を中心に新規導入作物支援、里山景観支援、特産品・花卉支援の各種活動のなかで、ニンニク・ショウガ、ネギの試験栽培、請戸川周辺の桜並木の整備、地域の特産・タマネギを使った草木染めの支援等を行っている。また、双葉町にはブロッコリーの栽培に関する活動の支援を契機として担い手育成のあり方を検討している。

「**特別インターン**」は夏期休暇を利用した5日間滞在による受入農家と連携した農業体験に加え、いちじく生産組合と連携したいちじく関連商品の支援に取り組んできた。いちじく班に所属する学生はいちじく関連商品に使用するロゴデザインを考案し、「**標葉祭り2023**」で地元生産者と共に出店して、いちじく商品の販売実習を行っている。

「**新規就農実践講座**」はオンライン形式で講座を複数回受講し、就農ビジネスプランを考案する。

「**学生プロジェクト**」はSNS等を使った活動の広報や学園祭(収穫祭)で浪江町関連商品の販売・PR活動、「浪江復興米」のパッケージデザインを考案している。この他にも学内教員の専門性を活かした米の機能性開発やエゴマの新たな有効活用にも取り組んでいる。

本事業に対する本学学生の関心度は高く、2023年度の活動登録学生は272名となっている。このうち昨年度から継続参加している学生は51名となっている。

以上のように、各種の教育プログラムの実践を通して、大学生等が浪江町との「縁」を作り上げ、多くの「**復興支援サポーター**」人材の輩出と地域資源を活用した商品提案等によって浪江町を中心とする沿岸地域の復興支援に寄与していきたい。

事業終了時点の成果及びその後の見通し

本事業終了時点では、浪江町および沿岸地域への新規就農および地域企業等への就職実績として、5年間で9名の人材定着と「**復興支援サポーター**」を100名輩出することを目指している。人材育成に向けては、「**新規就農実践講座**」を受講し、2024年4月に浪江町の「**地域おこし協力隊**」としての新規就農予定者は1名となっているものの、「**復興支援サポーター**」は2年間で59名で順調に推移している。更なる新規就農や地域企業への就職といった地域の人材定着に向けて、自治体や関連する地域企業との連携や特別インターンを精力的に取り組みながら目標達成を目指したい。

地域活性化に向けては、地域の特産品を活用した商品開発への支援を行っており、「浪江復興米」のパッケージデザインの開発や浪江町のいちじく生産組合等と連携したいちじく関連商品の取り組みを通じて一定の成果を生み出している。今後はさらなる地域企業との連携や専門家等との連携のもと、商品開発支援やイベント企画等を通じて事業の成果を高めていきたい。



特別インターンで農業実習を行った



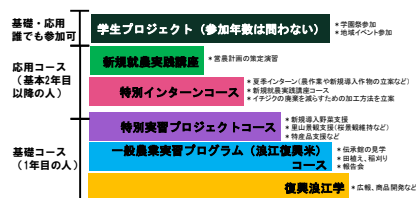
活動成果報告会でプレゼンテーションを行った



農大の学園祭で販売し優良店に選ばれた



町内の農業施設見学を通じて農業施策を理解した



これまでの活動や昨年度のアンケート結果を受け、基礎コースは伝承館で東日本大震災の状況を学び、かつ初歩的な農業を経験できるようにコースを設定し、その他の応用コースとして段階的に学ぶ形に修正した。



浪江町の特産品のいちじくのレシピ開発だけでなく、ロゴデザインやパッケージデザインを行った。



浪江町津島地区で行われた「標葉祭り」に参加し交流を深めた。開発した商品は完売した。